



SENSHOJI YUKARI NEWSLETTER

1994-2024

ゆかり通信

VOL. 317

令和 6 年 6 月

北海道千歳市清水町1-14 鶴竈山 千正寺

TEL: 0123-23-2442 FAX: 0123-24-9883

ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2024年千正寺カレンダー 6月の言葉



雑草という名の草はない。
害虫という名の虫はない。

私は後志管内共和町にある明善寺の住職をしています。農村地帯の田舎の町で夏場は境内の草刈り、冬場は除雪を日々の日課として過ごしています。境内全ての草刈りは刈払い機で一日3時間程度（それ以上すると手がしびれてくるので）、三日間かけてしています。それを年に5、6回しています。きれいに刈り終わった境内を見ると草刈りの労も癒やされます。

お寺でやっかいな草は2種類あります。一つ目は「ドクダミ」。独特の匂いがあり漢方にも使われるようで、子どもの頃はよく業者の方が「ドクダミを下さい」と取りに来ていました。地下の根で増えてゆき、「こんな所にも出てきたか！」と思うほど、切っても切っても生命力がある草です。二つ目が「西洋タンポポ」。根が深く、葉っぱは地面に張り付くように育ち、自分の周りにほかの草を生やさないようにしています。種を飛ばして増えるのでその前に、黄色い花を咲かせたらすぐ切るようにしていますが、切った花でも綿毛になり種を作ります。タンポポには勝てません。

草刈りが終わる10月からは「カメムシ」との勝負が待っています。カメムシは越冬する虫で冬場を過ごすためこの頃から家の中に入ってきます。サッシの隙間から上手に家の中に入り、畳の下で冬を越します。お寺は隙間だらけなのでその時期は毎日10匹以上のカメムシをほうきとちりとりで取り、外に逃がします。その繰り返しの日々の成果か最近は素手で取り、匂いを出させないで外に出す技術を習得しました。

こうした生活の中で、草や虫もそれぞれに知恵を絞りながら子孫を残すため懸命に生きていることを感じます。皆さんは「クモ」は苦手でしょうか。私も苦手なのですが、以前「クモは人にあまり害を加えず、ダニなどの虫を食べてくれる。」と聞いたことがあるので、この冬、茶の間にクモが出たときに妻が「取って」と言いましたが、説得して茶の間の天井で飼っていました。（世話をしていないので実際は飼ってはいませんが。）天井を行き来し、糸を垂らして降りたり昇ったりして一ヶ月くらい茶の間で過ごし、いなくなっていました。いなくなったと分かったときは少し寂しかったです。苦手だったクモも一緒に過ごすと少しは愛着がわくものです

（文：鹿谷賢純法務員）